

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (四国)		スーパー（店長）	単価の動き	・野菜の単価が上昇しており、売上の増加に貢献している。その上、前年に比べ気温が低いため、高単価の商品である鍋材料がよく売れ、景気を支えている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・衣料を中心に冬物商材の動きが良い。クリスマス商戦も、かなりのにぎわいで忘年会等も飲食店がかなり繁盛しているように感じる。
		商店街（事務局長）	来客数の動き	・街は人通りも多く活気がある。消費マインドも上がっていると思われるが、実需が伴わない。今は富裕層やインバウンドに支えられている。
		百貨店（販売促進）	来客数の動き	・来客数がプラスにシフトしている。上質な商品求められる傾向が高くなっている。
		スーパー（財務担当）	単価の動き	・価値ある物を、客にきちんと宣伝すると売れる。
		衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・12月は冬らしい天候と気温に恵まれており、アパレル関係の販促は良い状態である。特に単価の高いアウターが、前年に比べて相当良かったように思う。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・軽自動車は、衝突回避支援システムなど安全運転サポート車の投入効果もあり、12月も前年比を上回り堅調に推移した。
		乗用車販売店（役員）	単価の動き	・自動ブレーキを始めとした安全装置付きの車への代替は順調に進んでいくと考える。
		旅行代理店（営業部長）	それ以外	・中途採用面談を数回実施するが、なかなか条件が合わず、売り市場状態が顕著に出ている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・12月は忘年会が多い月であるが、利用客の様子では、今年は忘年会等の回数が減ったように感じる。
		通信会社（営業部長）	販売量の動き	・3か月前に比べて販売量が約10%増加した。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	それ以外	・クリスマスの盛り上がりは人出が少なく、連休が響いて悪かった。しかし、季節商材は早めに売れたので例年並みで収まった。
		一般小売店〔酒〕（販売担当）	販売量の動き	・毎年、お歳暮商材の注文が減少し単価も安くなっている。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・全国の百貨店トレンドは回復傾向も、新規SCオープン地域と併せて売上高は前年よりマイナス。領域別では食品・衣料品が低調も、百貨店顧客がターゲットの高額品は前年伸長で堅調。
		スーパー（企画担当）	販売量の動き	・売上について、クリスマスは前年程度の推移で終わったが、年末は例年よりも良かった。おせち料理の予約状況は前年比較で落ち気味に推移しているのと大みそかの天候が不安定な予報なのが月末に向けての不安要素になる。
		コンビニ（店長）	単価の動き	・客単価の上昇が続いている。
		コンビニ（総務）	来客数の動き	・売上前年比はクリアしているが、内容的には厳しく客数は減少し客単価の上昇で持ちこたえている状況。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・12月はその他の月と比べ、一般的に来店客が増加するが、今年は例年よりも少ない。景気自体は横ばいだと感じる。実店舗での販売は個店、路面店だと厳しいのではないかと。ファッションモールとか、Webの通信販売にかなり流れているように思う。
		衣料品専門店（総務担当）	販売量の動き	・冷え込みも強くなっているが、冬物商材の売上が今一つ伸びていない。前年をやや下回って推移している。客単価は増加しているが、集客に苦戦している店舗が多く、客数が伸びていない。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・ボーナス商戦を期待していたが思ったほど振るわなかった。季節商材が販売量をけん引している。
	家電量販店（副店長）	来客数の動き	・来店客数は若干前年を下回っているが、商品単価で前年並みはキープできている。	
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・前月の新車登録台数及び今月の新車受注状況は前年比90%程度である。	
	その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	販売量の動き	・寒さもあってコート等は売れているものの、衣料品全体では伸びておらず、景気が良くなっているとはいえない。	

	その他飲食 〔ファースト フード〕（経営 者）	単価の動き	・来店客数、客単価共に悪くなっている。
	観光型旅館（経 営者）	販売量の動き	・例年であるが、11月はまあまあ良くなってきた。12 月も冬休みから正月休みという形で、休みを取る客が 多くなってきたことがあり、良い状態といえる。忘年 会等も増えているという状態。
	都市型ホテル （経営者）	単価の動き	・販売単価はまだ一定水準でまだ低いところにとど まっている。若干、来客数が良くなったように感じ る。
	通信会社（社 員）	販売量の動き	・学割などの施策が例年よりも早く展開しているが、 販売が増加する時期には変化はなさそうである。
	通信会社（支店 長）	販売量の動き	・商戦期であるが、目立った動きはない。
	競輪競馬（マ ネージャー）	販売量の動き	・今月は、9月と比べ大きなレースが他場であったこ とから幾分売上高が増加したが、全体的に売上水準は 平行線をたどっている。
	一般小売店〔書 籍〕（営業担 当）	販売量の動き	・カレンダー、日記、家計簿などの年末の商材が、例 年と比べて売行きが悪くなっている。
	その他専門店 〔酒〕（経営 者）	来客数の動き	・酒類関係の売価が上昇したため、客の買い渋りが多 くなった。
	通信会社（技 術）	販売量の動き	・当社サービスの契約数が減少しているため。
	美容室（経営 者）	来客数の動き	・年末で忙しい時期のはずが、全くそうでもない。
	コンビニ（店 長）	来客数の動き	・明らかなオーバーストア状況下で、競争が激しくな かなか状況は改善しない。
	タクシー運転手	来客数の動き	・今月の週末は忘年会シーズンということもあり、利 用客は増加したが、平日や昼間はそれほど動きが良く ないため、売上は伸びていない。
	*	*	*
企業 動向 関連 (四国)	木材木製品製造 業（資材購買）	受注量や販売量 の動き	・原材料価格や輸送費用等の原価コスト上昇や人員不 足といった懸念材料はあるものの底堅い需要への手ご たえは感じられる。
	パルプ・紙・紙 加工品製造業 （経営者）	受注量や販売量 の動き	・インバウンドの増加とともに、商品の売上が増加し てきている。
	鉄鋼業（総務部 長）	受注量や販売量 の動き	・前月同様、自動車関連の金型と水門関係の鋳鋼品受 注がやや増加、主力造船関連は引き続き低迷してい る。
	電気機械器具製 造業（経営者）	受注量や販売量 の動き	・最近、太陽光建設の話がまとまってきた。また、バ イオマス発電も受注したことで、引き合いも出てい る。
	公認会計士	取引先の様子	・今月の各企業の決算内容等を分析すると、前年比で 改善している企業が増えている。特に建築関係、ホテ ル、観光関係などが中心に良くなっているようである。
	農林水産業（職 員）	取引先の様子	・青果物の卸売価格は、気象災害や天候要因から市場 入荷量が少なく、一部の品目を除き高値で推移してい る。しかし、絶対量不足からの高値で、末端の消費が 活発化してのものではない。量販店や業務需要者が品 ぞろえのため、荷物を集めるため出ている相場で、末 端の消費が伴ったものではない。なお、数量が少ない ことから、金額的には前年同期を少し上回る程度であ る。
	電気機械器具製 造業（経理）	取引先の様子	・取引先から得られる情報に特段の変化は見られず、 受注に関しても大きな変動はない。また、市場の動向 に係るトピックも発生していない。
	建設業（経営 者）	競争相手の様子	・公共事業の発注量が安定しており、受注額、売上額 は各社、ばらつきはあるが、総じて、例年並み又はや や減で収まっているようである。各社、冬季ボーナス も例年並みと聞いており、底堅い堅調さが維持できて いる。
	建設業（経営 者）	受注量や販売量 の動き	・今月に入って、若干数工事も受注したが、まだまだ 不足していると感じる。
	輸送業（経営 者）	取引先の様子	・大きな変化は感じない。

	輸送業（支店長）	取引先の様子	・現状の景気がやや良いのは年未年始の期間限定のものであり、年が明ければまた通常の様相となる見込み。
	輸送業（営業）	受注量や販売量の動き	・本来であれば取扱物量が著しく増加し業務も多忙を極めるこの時期であるが、前年同様、歳末商戦の取扱物量に著しい増加や波動が見られない。12月中旬以降の短期間に貨物が集中するようなことがなく、発送、到着共に順調に荷さばきできた事から、地方における景気の回復を実感できない状況である。発送貨物は依然として運賃の安価な同業者に流れる傾向に変わりはなく、運賃値上げを実施した業者にとっては厳しい状況が続いている。
	金融業（副支店長）	取引先の様子	・取引先企業の業績推移、資金繰り状況はおおむね安定している印象であり資金需要動向にも大きな変化は見られなかった。
	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・全国の百貨店、ギフト業者関係のタオル受注が厳しくなっており、地元のタオルブランドにも陰りがみられる。そのため、加工スペースも少し空き始めている。
	x	-	-
雇用 関連 (四国)	人材派遣会社（営業担当）	周辺企業の様子	・直接雇用社員だけの採用では必要人数に足りず、派遣の依頼が来ることが散見されている。
	人材派遣会社（営業）	雇用形態の様子	・景気の良い業界は常に社会の変化に敏感で、その変化に合った新事業を展開している。そこで必要な人材の確保は通常集まりにくい業界であっても、意外に求人定員を超える応募があるようだ。企業も人材も新しい変化を求めているなか、景気の上向きを感じた。
	職業安定所（職員）	それ以外	・11月の有効求人倍率は1.55倍であり、3か月前と比べて0.11ポイント上昇している。
	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・企業の人手不足感は高く、正社員募集が増加しつつある。
	学校〔大学〕（就職担当）	雇用形態の様子	・非正規雇用を正規雇用に切り替える動きが目立ち始めたと思われるため。
	求人情報誌（営業）	求職者数の動き	・新卒、一般とも取扱求人数は過去最高となったが、それに反比例して各企業とも人員が充足していない。現場でのワーカーから幹部候補となる人材までどの職位も不足しているままの企業が多い。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・企業の内部留保が増えたとしても民間の好況感には程遠く感じている。
	民間職業紹介機関（所長）	周辺企業の様子	・年末挨拶で各企業に訪問した際に、「今年はいかがでしたか」という質問に対し、多くの経営者からは、「良くも悪くもなかった」という返事が多かった。各企業においては、特に特筆すべきものがなかったといえる。来年は、良い年になることを祈るのみである。
	人材派遣会社（営業担当）	求職者数の動き	・求職者で派遣会社の登録が減っており、求人媒体に経費が掛かり、人材派遣の業界が厳しくなりつつある。
	x	-	-